

①膀胱アトニーによる排尿障害(犬)

症例:Mダックス、13歳、未避妊雌、4.7kg

診断:膀胱アトニー

症状:排尿不全

既往歴:過去の椎間板ヘルニアにより慢性的な排尿障害

治療:ベタネコール、塩酸プラゾシン、カテーテル留置

ADSC治療目的:排尿障害改善



第1病日 主訴

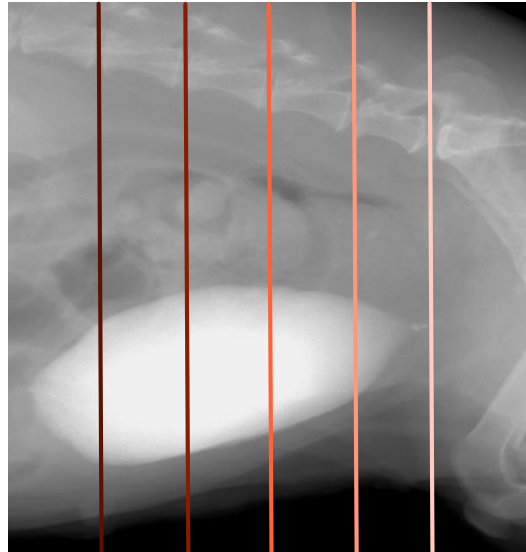
- 尿漏れがひどい
- 排尿姿勢をとるが尿が出ない
- 膀胱が弛緩して圧迫排尿ができない
- 元気食欲あり



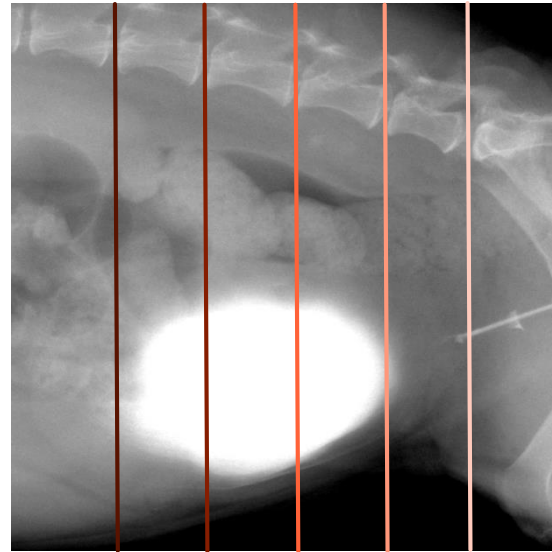
第1病日 レントゲン

| 病日 | 治療 | |
|------|---|----------|
| 1~25 | ベタネコール0.25mg/kg q8h 塩酸プラゾシン1mg/kg q12h | |
| 22 | 尿カテによる尿抜去300ml | |
| 23 | 尿カテによる尿抜去200ml | |
| 24 | 尿カテによる尿抜去200ml | |
| 25 | 他家ADSC 5.0×10 ⁶ | バルーンカテ留置 |
| 31 | 他家ADSC 5.0×10 ⁶ | |
| 38 | 他家ADSC 5.0×10 ⁶ | |
| 45 | バルーンカテ抜去 | |

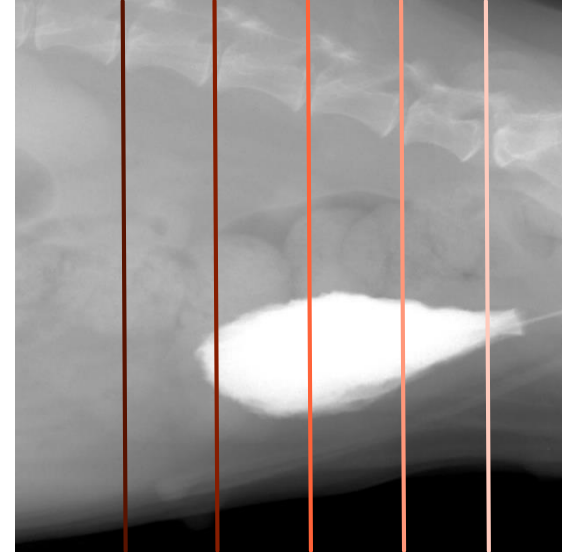
①膀胱アトニーによる排尿障害(犬)



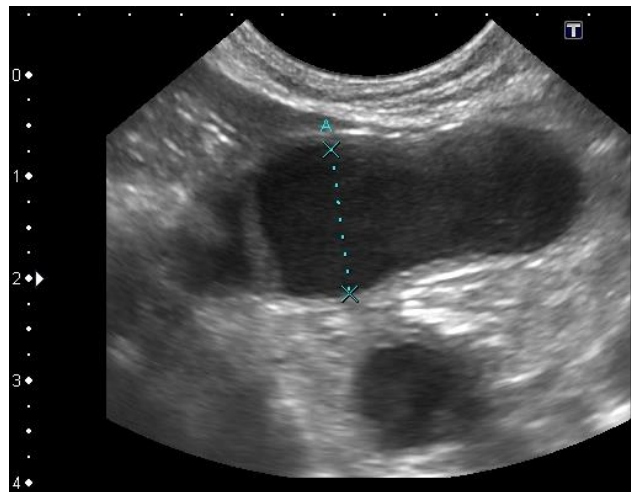
第31病日
ADSC2回目



第38病日
ADSC3回目



第45病日

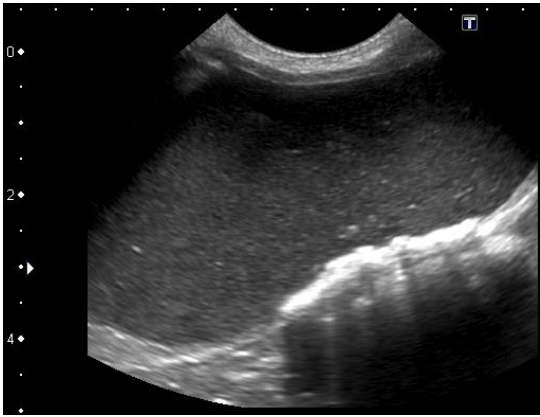


第47病日 子宮蓄膿症発症

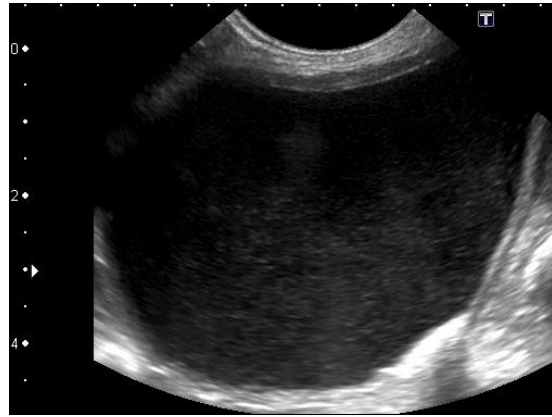


第51病日 子宮蓄膿症手術
膀胱はまだ弛緩している

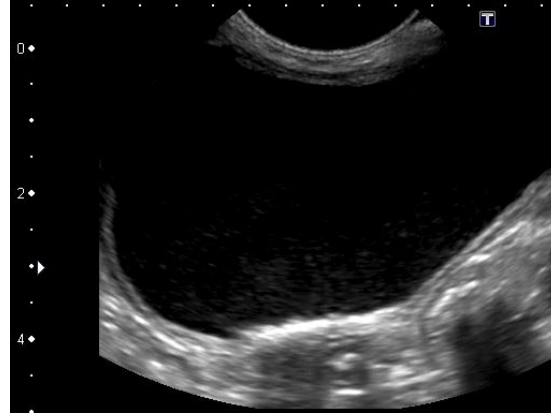
①膀胱アトニーによる排尿障害(犬)



治療前



第62病日
ADSC3回目投与から3週



第122病日
ADSC3回目投与から12週



第150病日
ADSC3回目投与から16週

獣医師コメント

- 膀胱アトニーに対して他家ADSCがどの程度効果があったかは不明である
- 投与後約4ヶ月は排尿状態・膀胱内容の改善がみられたが、完全な排尿には至らなかった
- ADSC 3回目投与9日後に子宮蓄膿症を発症したため、ADSC投与との因果関係は否定できない
(約1年半前から存在した子宮の異常や検査のための頻回な膀胱カテーテル挿入の影響も考えられる)
- 今後は高齢の未避妊雌に対するADSCの投与には注意すべきである
- 自家投与による効果の検証が必要である